

5万円未満」が157名（27.4%）、「15～20万円未満」が97名（16.9%）、「20万以上」が121名（21.1%）、「わからない」が7名（1.2%）であった。

母親の仕事についての悩みや不満（N=585）は、「勤め先が遠い」が41名（7.0%）、「勤務時間が長い」が18名（3.1%）、「夜勤や交代勤務がある」が23名（3.9%）、「残業が多い」が20名（3.4%）、「休みがとりにくい」が74名（12.6%）、「収入が少ない」が100名（17.1%）、「資格をいかせない」が6名（1.0%）、「雇用や身分が不安定」が27名（4.6%）、「昇給や昇進が遅い」が13名（2.2%）、「仕事の内容が難しい」が18名（3.1%）、「仕事の内容がつまらない」が9名（1.5%）、「仕事がつらい」が30名（5.1%）、「職場の人間関係がよくない」が32名（5.5%）、「その他」が18名（3.1%）、「特になし」が156名（26.7%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の仕事についての悩みや不満（N=563）は、「勤め先が遠い」が40名（7.1%）、「勤務時間が長い」が18名（3.2%）、「夜勤や交代勤務がある」が22名（3.9%）、「残業が多い」が19名（3.4%）、「休みがとりにくい」が72名（12.8%）、「収入が少ない」が97名（17.2%）、「資格をいかせない」が6名（1.1%）、「雇用や身分が不安定」が26名（4.6%）、「昇給や昇進が遅い」が13名（2.3%）、「仕事の内容が難しい」が17名（3.0%）、「仕事の内容がつまらない」が9名（1.6%）、「仕事がつらい」が29名（5.2%）、「職場の人間関係がよくない」が31名（5.5%）、「その他」が17名（3.0%）、「特になし」が147名（26.1%）であった。

母親の就労観（N=591）は、「自分の能力を生かすため」が114名（19.3%）、「収入を得るため」が520名（88.0%）、「生きがい」が70名（11.8%）、「自分のプライドを満たしてくれる」が6名（1.0%）、「社会勉強」が33名（5.6%）、「自立のため」が53名（9.0%）、「他人がすすめるから」が2名（0.3%）、「技術を身につける」が15名（2.5%）、「他の人と接する機会をもつため」が135名（22.8%）、「その他」が28名（4.7%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の就労観（N=567）は、「自分の能力を生かすため」が110名（19.4%）、「収入を得るため」が502名（88.5%）、「生きがい」が66名（11.6%）、「自分のプライドを満たしてくれる」が6名（1.1%）、「社会勉強」が32名（5.6%）、「自立のため」が51名（9.0%）、「他人がすすめるから」が2名（0.4%）、「技術を身につける」が15名（2.6%）、「他の人と接する機会をもつため」が132名（23.3%）、「その他」が26名（4.6%）であった。

母親の就労継続の意思（N=566）は、「いまの仕事を続けたい」が396名（70.0%）、「仕事の内容（職種）をかえたい」が52名（9.2%）、「勤め先をかえたい」が50名（8.8%）、「常勤の仕事にかわりたい」が17名（3.0%）、「パートの仕事にかわりたい」が8名（1.4%）、「仕事をやめたい」が18名（3.2%）、「その他」が25名（4.4%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の就労継続の意思（N=544）は、「いまの仕事を続けたい」が379名（69.7%）、「仕事の内容（職種）をかえたい」が50名（9.2%）、「勤め先をかえたい」が49名（9.0%）、「常勤の仕事にかわりたい」が17名（3.1%）、「パートの仕事にかわりたい」が8名（1.5%）、「仕事をやめたい」が18名（3.3%）、「その他」が23名（4.2%）であった。

夫の家事・育児の参加状況に関しては、父親の家事・育児分担については、「休日や帰

宅後に子どもの遊び相手をする(勉強をみる)」(N=637)は、「いつもしている」が268名(42.1%)、「ときどきしている」が271名(42.5%)、「あまりしていない」が81名(12.7%)、「まったくしていない」が17名(2.7%)であった。「子育てに関することで夫婦で話し合う」(N=637)は、「いつもしている」が188名(29.5%)、「ときどきしている」が309名(48.5%)、「あまりしていない」が114名(17.9%)、「まったくしていない」が26名(4.1%)であった。「あなたの悩みやグチを聞いてくれる」(N=635)は、「いつもしている」が192名(30.2%)、「ときどきしている」が263名(41.4%)、「あまりしていない」が133名(20.9%)、「まったくしていない」が47名(7.4%)であった。「保育園・幼稚園に子どもを送って行く(迎えに行く)」(N=635)は、「いつもしている」が134名(21.1%)、「ときどきしている」が241名(38.0%)、「あまりしていない」が145名(22.8%)、「まったくしていない」が115名(18.1%)であった。「あなたの外出中に子どもの世話をする」(N=639)は、「いつもしている」が275名(43.0%)、「ときどきしている」が245名(38.3%)、「あまりしていない」が94名(14.7%)、「まったくしていない」が25名(3.9%)であった。「子どもと一緒に風呂に入る」(N=638)は、「いつもしている」が280名(43.9%)、「ときどきしている」が255名(40.0%)、「あまりしていない」が74名(11.6%)、「まったくしていない」が29名(4.5%)であった。「子どもの着替えを手伝う(おむつを替える)」(N=634)は、「いつもしている」が157名(24.8%)、「ときどきしている」が270名(42.6%)、「あまりしていない」が145名(22.9%)、「まったくしていない」が62名(9.8%)であった。「子どもと一緒に夕食をとる(食事を食べさせる)」(N=638)は、「いつもしている」が268名(42.0%)、「ときどきしている」が214名(33.5%)、「あまりしていない」が123名(19.3%)、「まったくしていない」が33名(5.2%)であった。「子どもを寝かしつける」(N=636)は、「いつもしている」が108名(17.0%)、「ときどきしている」が224名(35.2%)、「あまりしていない」が179名(28.1%)、「まったくしていない」が125名(19.7%)であった。「子どもが病気のときに仕事を休んで看病する」(N=637)は、「いつもしている」が30名(4.7%)、「ときどきしている」が97名(15.2%)、「あまりしていない」が132名(20.7%)、「まったくしていない」が378名(59.3%)であった。「休日に家族を連れて出かける」(N=639)は、「いつもしている」が265名(41.5%)、「ときどきしている」が271名(42.4%)、「あまりしていない」が81名(12.7%)、「まったくしていない」が22名(3.4%)であった。「食品の買い物と一緒に行く」(N=638)は、「いつもしている」が191名(29.9%)、「ときどきしている」が299名(46.9%)、「あまりしていない」が90名(14.1%)、「まったくしていない」が58名(9.1%)であった。「食事をつくる」(N=638)は、「いつもしている」が40名(6.3%)、「ときどきしている」が195名(30.6%)、「あまりしていない」が168名(26.3%)、「まったくしていない」が235名(36.8%)であった。「食器を洗う」(N=639)は、「いつもしている」が64名(10.0%)、「ときどきしている」が181名(28.3%)、「あまりしていない」が161名(25.2%)、「まったくしていない」が233名(36.5%)であった。「お風呂の掃除や準備をする」(N=639)は、「いつもしている」が84名(13.1%)、「ときどきしている」が236名(36.9%)、「あまりしていない」が128名(20.0%)、「まったくしていない」が191名(29.9%)であった。「ゴミ捨てをする」(N=639)は、「いつもして

いる」が150名(23.5%)、「ときどきしている」が163名(25.5%)、「あまりしていない」が120名(18.8%)、「まったくしていない」が206名(32.2%)であった。「部屋の掃除をする」(N=639)は、「いつもしている」が36名(5.6%)、「ときどきしている」が183名(28.6%)、「あまりしていない」が185名(29.0%)、「まったくしていない」が235名(36.8%)であった。「洗濯をする(洗濯を干すまたはたたむ)」(N=636)は、「いつもしている」が56名(8.8%)、「ときどきしている」が124名(19.5%)、「あまりしていない」が128名(20.1%)、「まったくしていない」が328名(51.6%)であった。「アイロンがけをする」(N=638)は、「いつもしている」が13名(2.0%)、「ときどきしている」が43名(6.7%)、「あまりしていない」が63名(9.9%)、「まったくしていない」が519名(81.3%)であった。「保育園・幼稚園のお便りを書く」(N=637)は、「いつもしている」が15名(2.4%)、「ときどきしている」が52名(8.2%)、「あまりしていない」が79名(12.4%)、「まったくしていない」が491名(77.1%)であった。「保育園・幼稚園の行事に参加する」(N=637)は、「いつもしている」が193名(30.3%)、「ときどきしている」が272名(42.7%)、「あまりしていない」が108名(17.0%)、「まったくしていない」が64名(10.0%)であった。「子どもの疑問や話しかけにきちんと答える」(N=638)は、「いつもしている」が355名(55.6%)、「ときどきしている」が200名(31.3%)、「あまりしていない」が73名(11.4%)、「まったくしていない」が10名(1.6%)であった。「子どもがいけないことをしたときには叱る」(N=640)は、「いつもしている」が461名(72.0%)、「ときどきしている」が149名(23.3%)、「あまりしていない」が21名(3.3%)、「まったくしていない」が9名(1.4%)であった。「写真をとるなどの子どもの成長記録をつける」(N=638)は、「いつもしている」が135名(21.2%)、「ときどきしている」が231名(36.2%)、「あまりしていない」が147名(23.0%)、「まったくしていない」が125名(19.6%)であった。「子どもを病院へ連れていく」(N=638)は、「いつもしている」が73名(11.4%)、「ときどきしている」が212名(33.2%)、「あまりしていない」が162名(25.4%)、「まったくしていない」が191名(29.9%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、夫の家事・育児の参加状況に関しては、父親の家事・育児分担については、「休日や帰宅後に子どもの遊び相手をする(勉強をみる)」(N=533)は、「いつもしている」が230名(43.2%)、「ときどきしている」が221名(41.5%)、「あまりしていない」が68名(12.8%)、「まったくしていない」が14名(2.6%)であった。「子育てに関することで夫婦で話し合う」(N=534)は、「いつもしている」が156名(29.2%)、「ときどきしている」が254名(47.6%)、「あまりしていない」が104名(19.5%)、「まったくしていない」が20名(3.7%)であった。「あなたの悩みやグチを聞いてくれる」(N=531)は、「いつもしている」が165名(31.1%)、「ときどきしている」が217名(40.9%)、「あまりしていない」が109名(20.5%)、「まったくしていない」が40名(7.5%)であった。「保育園・幼稚園に子どもを送って行く(迎えに行く)」(N=532)は、「いつもしている」が130名(24.4%)、「ときどきしている」が201名(37.8%)、「あまりしていない」が113名(21.2%)、「まったくしていない」が88名(16.5%)であった。「あなたの外出中に子どもの世話をする」(N=535)は、「いつもしている」が235名(43.9%)、「ときどきしている」が205名(38.3%)、「あまりしていない」が76名(14.2%)、

「まったくしていない」が19名（3.6%）であった。「子どもと一緒にお風呂に入る」（N=534）は、「いつもしている」が243名（45.5%）、「ときどきしている」が207名（38.8%）、「あまりしていない」が60名（11.2%）、「まったくしていない」が24名（4.5%）であった。「子どもの着替えを手伝う（おむつを替える）」（N=531）は、「いつもしている」が142名（26.7%）、「ときどきしている」が226名（42.6%）、「あまりしていない」が114名（21.5%）、「まったくしていない」が49名（9.2%）であった。「子どもと一緒に夕食をとる（食事を食べさせる）」（N=534）は、「いつもしている」が228名（42.7%）、「ときどきしている」が180名（33.7%）、「あまりしていない」が102名（19.1%）、「まったくしていない」が24名（4.5%）であった。「子どもを寝かしつける」（N=533）は、「いつもしている」が95名（17.8%）、「ときどきしている」が189名（35.5%）、「あまりしていない」が145名（27.2%）、「まったくしていない」が104名（19.5%）であった。「子どもが病気のとときに仕事を休んで看病する」（N=533）は、「いつもしている」が28名（5.3%）、「ときどきしている」が91名（17.1%）、「あまりしていない」が104名（19.5%）、「まったくしていない」が310名（58.2%）であった。「休日に家族を連れて出かける」（N=534）は、「いつもしている」が216名（40.4%）、「ときどきしている」が232名（43.4%）、「あまりしていない」が66名（12.4%）、「まったくしていない」が20名（3.7%）であった。「食品の買い物と一緒に行く」（N=533）は、「いつもしている」が155名（29.1%）、「ときどきしている」が250名（46.9%）、「あまりしていない」が80名（15.0%）、「まったくしていない」が48名（9.0%）であった。「食事をつくる」（N=534）は、「いつもしている」が35名（6.6%）、「ときどきしている」が170名（31.8%）、「あまりしていない」が145名（27.2%）、「まったくしていない」が184名（34.5%）であった。「食器を洗う」（N=535）は、「いつもしている」が60名（11.2%）、「ときどきしている」が158名（29.5%）、「あまりしていない」が132名（24.7%）、「まったくしていない」が185名（34.6%）であった。「お風呂の掃除や準備をする」（N=535）は、「いつもしている」が78名（14.6%）、「ときどきしている」が196名（36.6%）、「あまりしていない」が107名（20.0%）、「まったくしていない」が154名（28.8%）であった。「ゴミ捨てをする」（N=535）は、「いつもしている」が141名（26.4%）、「ときどきしている」が144名（26.9%）、「あまりしていない」が91名（17.0%）、「まったくしていない」が159名（29.7%）であった。「部屋の掃除をする」（N=535）は、「いつもしている」が32名（6.0%）、「ときどきしている」が159名（29.7%）、「あまりしていない」が147名（27.5%）、「まったくしていない」が197名（36.8%）であった。「洗濯をする（洗濯を干すまたはたたむ）」（N=533）は、「いつもしている」が53名（9.9%）、「ときどきしている」が114名（21.4%）、「あまりしていない」が114名（21.4%）、「まったくしていない」が252名（47.3%）であった。「アイロンがけをする」（N=534）は、「いつもしている」が11名（2.1%）、「ときどきしている」が41名（7.7%）、「あまりしていない」が59名（11.0%）、「まったくしていない」が423名（79.2%）であった。「保育園・幼稚園のお便りを書く」（N=533）は、「いつもしている」が14名（2.6%）、「ときどきしている」が50名（9.4%）、「あまりしていない」が72名（13.5%）、「まったくしていない」が397名（74.5%）であった。「保育園・幼稚園の行事に参加する」（N=533）は、「いつもしている」が163名（30.6%）、

「ときどきしている」が216名(40.5%)、「あまりしていない」が96名(18.0%)、「まったくしていない」が58名(10.9%)であった。「子どもの疑問や話しかけにきちんと答える」(N=534)は、「いつもしている」が292名(54.7%)、「ときどきしている」が174名(32.6%)、「あまりしていない」が58名(10.9%)、「まったくしていない」が10名(1.9%)であった。「子どもがいけないことをしたときには叱る」(N=536)は、「いつもしている」が390名(72.8%)、「ときどきしている」が122名(22.8%)、「あまりしていない」が17名(3.2%)、「まったくしていない」が7名(1.3%)であった。「写真をとるなどの子どもの成長記録をつける」(N=534)は、「いつもしている」が113名(21.2%)、「ときどきしている」が188名(35.2%)、「あまりしていない」が129名(24.2%)、「まったくしていない」が104名(19.5%)であった。「子どもを病院へ連れていく」(N=534)は、「いつもしている」が64名(12.0%)、「ときどきしている」が176名(33.0%)、「あまりしていない」が136名(25.5%)、「まったくしていない」が158名(29.6%)であった。

夫に対する評価については、「夫にもっと家事を協力してほしい」(N=630)は、「そう思う」が310名(49.0%)、「そうは思わない」が323名(51.0%)であった。「夫にもっと育児に参加してほしい」(N=632)は、「そう思う」が365名(57.8%)、「そうは思わない」が267名(42.2%)であった。「夫は子どもにきびしすぎる」(N=636)は、「そう思う」が96名(15.1%)、「そうは思わない」が540名(84.9%)であった。「夫は子どもにあますぎる」(N=632)は、「そう思う」が166名(26.3%)、「そうは思わない」が466名(73.7%)であった。「夫に子どもともっと遊んでほしい」(N=634)は、「そう思う」が365名(57.6%)、「そうは思わない」が269名(42.4%)であった。「夫は子どもにかまひすぎる」(N=632)は、「そう思う」が57名(9.0%)、「そうは思わない」が575名(91.0%)であった。「夫は子どもに無関心すぎる」(N=636)は、「そう思う」が68名(10.7%)、「そうは思わない」が568名(89.3%)であった。「子どものことについてもっと相談にのってほしい」(N=634)は、「そう思う」が210名(33.1%)、「そうは思わない」が424名(66.9%)であった。「夫は頼りにならない」(N=630)は、「そう思う」が88名(14.0%)、「そうは思わない」が542名(86.0%)であった。「夫には何を話してもムダだ」(N=632)は、「そう思う」が70名(11.1%)、「そうは思わない」が562名(88.9%)であった。「夫は仕事第一主義である」(N=634)は、「そう思う」が197名(31.1%)、「そうは思わない」が437名(68.9%)であった。「夫は私を人生のパートナーとして大切に思っている」(N=622)は、「そう思う」が460名(74.0%)、「そうは思わない」が162名(26.0%)であった。「夫は家族よりも趣味に没頭している」(N=634)は、「そう思う」が111名(17.5%)、「そうは思わない」が523名(82.5%)であった。「夫は家族よりも友人関係を大切にする」(N=635)は、「そう思う」が72名(11.3%)、「そうは思わない」が563名(88.7%)であった。「夫は何かと実家に頼りすぎる」(N=633)は、「そう思う」が94名(14.8%)、「そうは思わない」が539名(85.2%)であった。「男は仕事、女は家庭」という考え方をもっている」(N=636)は、「そう思う」が192名(30.0%)、「そうは思わない」が444名(69.8%)であった。「夫は子育ては夫婦の責任だと思っている」(N=631)は、「そう思う」が440名(69.7%)、「そうは思わない」が191名(30.3%)であった。「夫は疲れている」(N=631)は、「そう思う」

が424名(67.2%)、「そうは思わない」が207名(32.8%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、夫に対する評価については、「夫にもっと家事を協力してほしい」(N=529)は、「そう思う」が267名(50.5%)、「そうは思わない」が262名(49.5%)であった。「夫にもっと育児に参加してほしい」(N=528)は、「そう思う」が305名(57.8%)、「そうは思わない」が223名(42.2%)であった。「夫は子どもにきびしすぎる」(N=532)は、「そう思う」が81名(15.2%)、「そうは思わない」が451名(84.8%)であった。「夫は子どもにあますぎる」(N=530)は、「そう思う」が132名(24.9%)、「そうは思わない」が398名(75.1%)であった。「夫に子どもともっと遊んでほしい」(N=530)は、「そう思う」が309名(58.3%)、「そうは思わない」が221名(41.7%)であった。「夫は子どもにかまひすぎる」(N=529)は、「そう思う」が49名(9.3%)、「そうは思わない」が480名(90.7%)であった。「夫は子どもに無関心すぎる」(N=532)は、「そう思う」が57名(10.7%)、「そうは思わない」が475名(89.3%)であった。「子どものことについてもっと相談にのってほしい」(N=530)は、「そう思う」が177名(33.4%)、「そうは思わない」が353名(66.6%)であった。「夫は頼りにならない」(N=527)は、「そう思う」が76名(14.4%)、「そうは思わない」が451名(86.6%)であった。「夫には何を話してもムダだ」(N=528)は、「そう思う」が59名(11.2%)、「そうは思わない」が469名(88.8%)であった。「夫は仕事第一主義である」(N=529)は、「そう思う」が164名(31.0%)、「そうは思わない」が365名(69.0%)であった。「夫は私を人生のパートナーとして大切に思っている」(N=518)は、「そう思う」が380名(73.4%)、「そうは思わない」が138名(26.6%)であった。「夫は家族よりも趣味に没頭している」(N=530)は、「そう思う」が97名(18.3%)、「そうは思わない」が433名(81.7%)であった。「夫は家族よりも友人関係を大切ににする」(N=531)は、「そう思う」が59名(11.1%)、「そうは思わない」が472名(88.9%)であった。「夫は何かと実家に頼りすぎる」(N=529)は、「そう思う」が80名(15.1%)、「そうは思わない」が449名(84.9%)であった。「男は仕事、女は家庭」という考え方をもっている」(N=531)は、「そう思う」が146名(27.5%)、「そうは思わない」が385名(72.5%)であった。「夫は子育ては夫婦の責任だと思っている」(N=529)は、「そう思う」が368名(69.6%)、「そうは思わない」が161名(30.4%)であった。「夫は疲れている」(N=526)は、「そう思う」が356名(67.7%)、「そうは思わない」が170名(32.3%)であった。

父親の年齢(N=637)は、「25歳未満」が14名(2.2%)、「25~30歳未満」が70名(11.0%)、「30~35歳未満」が196名(30.8%)、「35~40歳未満」が204名(32.0%)、「40歳以上」が153名(24.0%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、父親の年齢(N=532)は、「25歳未満」が13名(2.4%)、「25~30歳未満」が63名(11.8%)、「30~35歳未満」が177名(33.3%)、「35~40歳未満」が153名(28.8%)、「40歳以上」が126名(23.7%)であった。

父親の雇用形態(N=632)は、「民間企業の正社員・正職員(常勤雇用)」が348名(55.1%)、「公務・団体の正職員(常勤雇用)」が157名(24.8%)、「臨時雇用(季節雇用も含む)」が40名(6.3%)、「パートタイマー」が3名(0.5%)、「無職」が3名(0.5%)、「その他」が81名(12.8%)であった。保育園に通園している子どもの母親

についてのみ分析してみると、父親の雇用形態（N= 527）は、「民間企業の正社員・正職員（常勤雇用）」が294名（55.8％）、「公務・団体の正職員（常勤雇用）」が117名（22.2％）、「臨時雇用（季節雇用も含む）」が38名（7.2％）、「パートタイマー」が3名（0.6％）、「無職」が3名（0.6％）、「その他」が72名（13.7％）であった。

父親の職業（N=629）は、「事務（一般事務など）」が73名（11.6％）、「店員（スーパー・商店の店員など）」が11名（1.7％）、「営業・セールス（保険・自動車などのセールス）」が50名（7.9％）、「農・林・水産業」が28名（4.5％）、「運輸・通信（職業運転手・荷役などの運輸従業者、通信従事者）」が65名（10.3％）、「製造・建設業（製造、加工、組立、建設、修理などの従事者）」が139名（22.1％）、「工員・作業員」が32名（5.1％）、「理容・美容などのサービス業」が6名（1.0％）、「飲食店などのサービス業」が15名（2.4％）、「専門職・技術的職業（医師、看護師、保育士、教員、弁護士、税理士など）」が110名（17.5％）、「管理的職業」が33名（5.2％）、「その他」が67名（10.7％）となっていた。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、父親の職業（N=525）は、「事務（一般事務など）」が61名（11.6％）、「店員（スーパー・商店の店員など）」が9名（1.7％）、「営業・セールス（保険・自動車などのセールス）」が39名（7.4％）、「農・林・水産業」が26名（5.0％）、「運輸・通信（職業運転手・荷役などの運輸従業者、通信従事者）」が60名（11.4％）、「製造・建設業（製造、加工、組立、建設、修理などの従事者）」が116名（22.1％）、「工員・作業員」が30名（5.7％）、「理容・美容などのサービス業」が6名（1.1％）、「飲食店などのサービス業」が15名（2.9％）、「専門職・技術的職業（医師、看護師、保育士、教員、弁護士、税理士など）」が84名（16.0％）、「管理的職業」が25名（4.8％）、「その他」が54名（10.3％）となっていた。

父親の出勤時間（N=629）は、「午前7時前」が126名（20.0％）、「午前7時～8時前」が273名（43.4％）、「午前8時～9時前」が153名（24.3％）、「午前9時～10時前」が16名（2.5％）、「午前10時～午後5時前」が8名（1.3％）、「午後5時以降」が5名（0.8％）、「決まっていない（交代勤務など）」が48名（7.6％）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、父親の出勤時間（N=524）は、「午前7時前」が116名（22.1％）、「午前7時～8時前」が230名（43.9％）、「午前8時～9時前」が114名（21.8％）、「午前9時～10時前」が13名（2.5％）、「午前10時～午後5時前」が8名（1.5％）、「午後5時以降」が4名（0.8％）、「決まっていない（交代勤務など）」が39名（7.4％）であった。

父親の帰宅時間（N=628）は、「早朝」が8名（1.3％）、「昼ごろ」が4名（0.6％）、「午後3時ごろ」が1名（0.2％）、「午後5～6時ごろ」が181名（28.8％）、「午後7～8時ごろ」が223名（35.5％）、「午後9～10時ごろ」が104名（16.6％）、「午後11時よりも遅い時間」が33名（5.3％）、「決まっていない（交代勤務など）」が74名（11.8％）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、父親の帰宅時間（N=523）は、「早朝」が6名（1.1％）、「昼ごろ」が2名（0.4％）、「午後3時ごろ」が1名（0.2％）、「午後5～6時ごろ」が158名（30.2％）、「午後7～8時ごろ」が182名（34.8％）、「午後9～10時ごろ」が83名（15.9％）、「午後11時よりも遅い時間」が29名（5.5％）、「決まっていない（交代勤務など）」が62名（11.9％）で

あった。

夫婦の共同行動について (N= 733) は、ここ半年間における夫婦の共同行動として、「テレビやビデオを見たり音楽を聴く」が382名 (52.1%)、「買い物に行く」が253名 (34.5%)、「映画・観劇・コンサートに行く」が38名 (5.2%)、「外食する」が172名 (23.5%)、「ドライブ・ハイキングに行く」が25名 (3.4%)、「旅行・キャンプに行く」が7名 (1.0%)、「スポーツをする」が23名 (3.1%)、「ゲームをする」が50名 (6.8%)、「カラオケに行く」が21名 (2.9%)、「パチンコに行く」が37名 (5.0%)、「家でお酒を飲む」が198名 (27.0%)、「ゆっくり話をする」が229名 (31.2%)、「その他」が20名 (2.7%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、夫婦の共同行動について (N= 626) は、ここ半年間における夫婦の共同行動として、「テレビやビデオを見たり音楽を聴く」が323名 (51.6%)、「買い物に行く」が217名 (34.7%)、「映画・観劇・コンサートに行く」が35名 (5.6%)、「外食する」が150名 (24.0%)、「ドライブ・ハイキングに行く」が23名 (3.7%)、「旅行・キャンプに行く」が6名 (1.0%)、「スポーツをする」が18名 (2.9%)、「ゲームをする」が43名 (6.9%)、「カラオケに行く」が21名 (3.4%)、「パチンコに行く」が35名 (5.6%)、「家でお酒を飲む」が172名 (27.5%)、「ゆっくり話をする」が194名 (31.0%)、「その他」が15名 (2.4%)であった。

親子の共同行動について (N=733) は、ここ半年間における親子の共同行動として、「テレビやビデオを見たり音楽を聴く」が557名 (76.0%)、「買い物に行く」が581名 (79.3%)、「映画・観劇・コンサートに行く」が106名 (14.5%)、「外食する」が561名 (76.5%)、「ドライブ・ハイキングに行く」が459名 (62.6%)、「旅行・キャンプに行く」が366名 (49.9%)、「スポーツをする」が99名 (13.5%)、「ゲームをする」が205名 (28.0%)、「カラオケに行く」が109名 (14.9%)、「家でお酒を飲む」が87名 (11.9%)、「ゆっくり話をする」が187名 (25.5%)、「その他」が9名 (1.2%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、親子の共同行動について (N= 626) は、ここ半年間における親子の共同行動として、「テレビやビデオを見たり音楽を聴く」が470名 (75.1%)、「買い物に行く」が485名 (77.5%)、「映画・観劇・コンサートに行く」が95名 (15.2%)、「外食する」が471名 (75.2%)、「ドライブ・ハイキングに行く」が383名 (61.2%)、「旅行・キャンプに行く」が300名 (47.9%)、「スポーツをする」が82名 (13.1%)、「ゲームをする」が168名 (26.8%)、「カラオケに行く」が96名 (15.3%)、「家でお酒を飲む」が79名 (12.6%)、「ゆっくり話をする」が158名 (25.2%)、「その他」が6名 (1.0%)であった。

父親の収入 (N=643) は、「200万円未満」が42名 (6.5%)、「200～300万円未満」が63名 (9.8%)、「300～500万円未満」が228名 (35.5%)、「500～700万円未満」が156名 (24.3%)、「700～1000万円未満」が114名 (17.7%)、「1000万円以上」が40名 (6.2%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、父親の収入 (N=543) は、「200万円未満」が42名 (7.7%)、「200～300万円未満」が60名 (11.0%)、「300～500万円未満」が194名 (35.7%)、「500～700万円未満」が116名 (21.4%)、「700～1000万円未満」が92名 (16.9%)、「1000万円以上」が39名 (7.2%)であった。

子育てについての考え方にに関して (N= 730) は、子育てするうえで支えや役に立っているものとして、「労働条件が恵まれている」が278名 (37.9%)、「夫の協力が得られやすい」が342名 (46.7%)、「親戚などの協力が得られやすい」が256名 (34.9%)、「子育ての楽しさや悩みを共有できる友人がいること」が336名 (45.8%)、「保育園や幼稚園が、子どもを預かってきていること」が583名 (79.5%)、「保育所や幼稚園が、子育てを一緒に考えたり励ましたりしてくれること」が314名 (42.8%)、「その他」が 44名 (6.0%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、子育てについての考え方にに関して (N= 626) は、子育てするうえで支えや役に立っているものとして、「労働条件が恵まれている」が264名 (42.2%)、「夫の協力が得られやすい」が280名 (44.7%)、「親戚などの協力が得られやすい」が222名 (35.5%)、「子育ての楽しさや悩みを共有できる友人がいること」が273名 (43.6%)、「保育園や幼稚園が、子どもを預かってきていること」が530名 (84.7%)、「保育所や幼稚園が、子育てを一緒に考えたり励ましたりしてくれること」が295名 (47.1%)、「その他」が36名 (5.8%)であった。

1番目に子育てするうえで支えや役に立っているものとして、「労働条件が恵まれている」が67名 (9.6%)、「夫の協力が得られやすい」が205名 (29.4%)、「親戚などの協力が得られやすい」が97名 (13.9%)、「子育ての楽しさや悩みを共有できる友人がいること」が81名 (11.6%)、「保育園や幼稚園が、子どもを預かってきていること」が190名 (27.3%)、「保育所や幼稚園が、子育てを一緒に考えたり励ましたりしてくれること」が37名 (5.3%)、「その他」が20名 (2.9%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、1番目に子育てするうえで支えや役に立っているものとして、「労働条件が恵まれている」が62名 (10.5%)、「夫の協力が得られやすい」が165名 (27.9%)、「親戚などの協力が得られやすい」が 86名 (14.5%)、「子育ての楽しさや悩みを共有できる友人がいること」が56名 (9.5%)、「保育園や幼稚園が、子どもを預かってきていること」が170名 (28.7%)、「保育所や幼稚園が、子育てを一緒に考えたり励ましたりしてくれること」が36名 (6.1%)、「その他」が17名 (2.9%)であった。

2番目に子育てするうえで支えや役に立っているものとして、「労働条件が恵まれている」が97名 (15.3%)、「夫の協力が得られやすい」が68名 (10.7%)、「親戚などの協力が得られやすい」が65名 (10.3%)、「子育ての楽しさや悩みを共有できる友人がいること」が96名 (15.2%)、「保育園や幼稚園が、子どもを預かってきていること」が184名 (29.1%)、「保育所や幼稚園が、子育てを一緒に考えたり励ましたりしてくれること」が108名 (17.1%)、「その他」が15名 (2.4%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、2番目に子育てするうえで支えや役に立っているものとして、「労働条件が恵まれている」が89名 (16.5%)、「夫の協力が得られやすい」が52名 (9.6%)、「親戚などの協力が得られやすい」が53名 (9.8%)、「子育ての楽しさや悩みを共有できる友人がいること」が72名 (13.3%)、「保育園や幼稚園が、子どもを預かってきていること」が166名 (30.7%)、「保育所や幼稚園が、子育てを一緒に考えたり励ましたりしてくれること」が98名 (18.1%)、「その他」が10名 (1.9%)であった。

子育てする上での困難 (N=733) は、「寝不足になる (体が疲れる)」が346名 (47.2%)、「自分の時間がもてない」が443名 (60.4%)、「何かとお金がかかる」が389名 (53.1%)、「子どもが思い通りにならずイライラする」が297名 (40.5%)、「こんな育て方で、ちゃんと育てくれるのだろうか」と不安になる」が427名 (58.3%)、「世の中から取り残されて孤立した感じがする」が40名 (5.5%)、「子どもにかまけてばかりで、自分の能力や意欲を生かしているという充実感がない」が52名 (7.1%)、「自分のしている育児が評価されない」が30名 (4.1%)、「その他」が38名 (5.2%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、子育てする上での困難 (N= 626) は、「寝不足になる (体が疲れる)」が298名 (47.6%)、「自分の時間がもてない」が380名 (60.7%)、「何かとお金がかかる」が334名 (53.4%)、「子どもが思い通りにならずイライラする」が247名 (39.5%)、「こんな育て方で、ちゃんと育てくれるのだろうか」と不安になる」が370名 (59.1%)、「世の中から取り残されて孤立した感じがする」が29名 (4.6%)、「子どもにかまけてばかりで、自分の能力や意欲を生かしているという充実感がない」が32名 (5.1%)、「自分のしている育児が評価されない」が21名 (3.4%)、「その他」が31名 (5.0%)であった。

1番目に子育てする上での困難 (N=695) は、「寝不足になる (体が疲れる)」が144名 (20.7%)、「自分の時間がもてない」が145名 (20.9%)、「何かとお金がかかる」が121名 (17.4%)、「子どもが思い通りにならずイライラする」が72名 (10.4%)、「こんな育て方で、ちゃんと育てくれるのだろうか」と不安になる」が178名 (25.6%)、「世の中から取り残されて孤立した感じがする」が2名 (0.3%)、「子どもにかまけてばかりで、自分の能力や意欲を生かしているという充実感がない」が4名 (0.6%)、「自分のしている育児が評価されない」が5名 (0.7%)、「その他」が24名 (3.5%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、1番目に子育てする上での困難 (N=590) は、「寝不足になる (体が疲れる)」が123名 (20.8%)、「自分の時間がもてない」が122名 (20.7%)、「何かとお金がかかる」が98名 (16.6%)、「子どもが思い通りにならずイライラする」が54名 (9.2%)、「こんな育て方で、ちゃんと育てくれるのだろうか」と不安になる」が163名 (27.6%)、「世の中から取り残されて孤立した感じがする」が2名 (0.3%)、「子どもにかまけてばかりで、自分の能力や意欲を生かしているという充実感がない」が4名 (0.7%)、「自分のしている育児が評価されない」が5名 (0.8%)、「その他」が19名 (3.2%)であった。

2番目に子育てする上での困難 (N=612) は、「寝不足になる (体が疲れる)」が96名 (15.7%)、「自分の時間がもてない」が152名 (24.8%)、「何かとお金がかかる」が129名 (21.1%)、「子どもが思い通りにならずイライラする」が81名 (13.2%)、「こんな育て方で、ちゃんと育てくれるのだろうか」と不安になる」が120名 (19.6%)、「世の中から取り残されて孤立した感じがする」が7名 (1.1%)、「子どもにかまけてばかりで、自分の能力や意欲を生かしているという充実感がない」が14名 (2.3%)、「自分のしている育児が評価されない」が7名 (1.1%)、「その他」が6名 (1.0%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、2番目に子育てする上での困難 (N=514) は、「寝不足になる (体が疲れる)」が82名 (16.0%)、「自分の時間がもてない」が132名 (25.7%)、「何かとお金がかかる」が118名 (23.0%)、

「子どもが思い通りにならずイライラする」が66名(12.8%)、「こんな育て方で、ちゃんと育てくれるのだろうかと不安になる」が96名(18.7%)、「世の中から取り残されて孤立した感じがする」が2名(0.4%)、「子どもにかまけてばかりで、自分の能力や意欲を生かしているという充実感がない」が7名(1.4%)、「自分のしている育児が評価されない」が6名(1.2%)、「その他」が5名(1.0%)であった。

最も子育てする上での相談相手(N=724)は、「学生時代からの友人」が52名(7.2%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が26名(3.6%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が9名(1.2%)、「夫を通しての友人」が2名(0.3%)、「近所や地域の人たち」が15名(2.1%)、「仕事を通しての友人」が28名(3.9%)、「趣味を通しての友人」が3名(0.4%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が211名(29.1%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が7名(1.0%)、「夫」が282名(39.0%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が8名(1.1%)、「保育園・幼稚園の先生や職員」が63名(8.7%)、「その他」が7名(1.0%)、「特に誰もいない」が11名(1.5%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、最も子育てする上での相談相手(N=620)は、「学生時代からの友人」が40名(6.5%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が14名(2.3%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が7名(1.1%)、「夫を通しての友人」が1名(0.2%)、「近所や地域の人たち」が13名(2.1%)、「仕事を通しての友人」が28名(4.5%)、「趣味を通しての友人」が2名(0.3%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が191名(30.8%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が7名(1.1%)、「夫」が232名(37.4%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が8名(1.3%)、「保育園・幼稚園の先生や職員」が61名(9.8%)、「その他」が6名(1.0%)、「特に誰もいない」が10名(1.6%)であった。

2番目に子育てする上で頼りになる相談相手(N=683)は、「学生時代からの友人」が86名(12.6%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が74名(10.8%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が22名(3.2%)、「夫を通しての友人」が3名(0.4%)、「近所や地域の人たち」が17名(2.5%)、「仕事を通しての友人」が49名(7.2%)、「趣味を通しての友人」が6名(0.9%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が156名(22.8%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が38名(5.6%)、「夫」が108名(15.8%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が11名(1.6%)、「保育園・幼稚園の先生や職員」が109名(16.0%)、「その他」が4名(0.6%)、「特に誰もいない」が0名(0.0%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、2番目に子育てする上で頼りになる相談相手(N=581)は、「学生時代からの友人」が73名(12.6%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が52名(9.0%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が16名(2.8%)、「夫を通しての友人」が3名(0.5%)、「近所や地域の人たち」が12名(2.1%)、「仕事を通しての友人」が45名(7.7%)、「趣味を通しての友人」が5名(0.9%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が131名(22.5%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が33名(5.7%)、「夫」が91名(15.7%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が9名(1.5%)、「保育園・幼稚園の先生や職員」が107名(18.4%)、「その他」が4名(0.7%)、「特に誰もいない」が0名(0.0%)であった。

3番目に子育てする上で頼りになる相談相手(N=614)は、「学生時代からの友人」が90名(14.7%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が62名(10.1%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が25名(4.1%)、「夫を通しての友人」が3名(0.5%)、「近所や地域の人たち」が15名(2.4%)、「仕事を通しての友人」が79名(12.9%)、「趣味を通しての友人」が6名(1.0%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が85名(13.8%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が46名(7.5%)、「夫」が64名(10.4%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が21名(3.4%)、「保育園・幼稚園の先生や職員」が109名(17.8%)、「その他」が6名(1.0%)、「特に誰もいない」が3名(0.5%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、3番目に子育てする上で頼りになる相談相手(N=520)は、「学生時代からの友人」が80名(15.4%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が40名(7.7%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が21名(4.0%)、「夫を通しての友人」が2名(0.4%)、「近所や地域の人たち」が10名(1.9%)、「仕事を通しての友人」が76名(14.6%)、「趣味を通しての友人」が2名(0.4%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が69名(13.3%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が39名(7.5%)、「夫」が55名(10.6%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が19名(3.7%)、「保育園・幼稚園の先生や職員」が99名(19.0%)、「その他」が6名(1.2%)、「特に誰もいない」が2名(0.4%)であった。

最も本人が悩んだ時の頼りになる相談相手(N=718)は、「学生時代からの友人」が160名(22.3%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が20名(2.8%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が3名(0.4%)、「夫を通しての友人」が4名(0.6%)、「近所や地域の人たち」が10名(1.4%)、「仕事を通しての友人」が51名(7.1%)、「趣味を通しての友人」が8名(1.1%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が147名(20.5%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が4名(0.6%)、「夫」が283名(39.4%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が1名(0.1%)、「保育園・幼稚園の先生や職員」が3名(0.4%)、「その他」が5名(0.7%)、「特に誰もいない」が19名(2.6%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、最も本人が悩んだ時の頼りになる相談相手(N=616)は、「学生時代からの友人」が143名(23.2%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が12名(1.9%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が3名(0.5%)、「夫を通しての友人」が3名(0.5%)、「近所や地域の人たち」が9名(1.5%)、「仕事を通しての友人」が49名(8.0%)、「趣味を通しての友人」が8名(1.3%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が126名(20.5%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が4名(0.6%)、「夫」が234名(38.0%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が1名(0.2%)、「保育園・幼稚園の先生や職員」が3名(0.5%)、「その他」が4名(0.6%)、「特に誰もいない」が17名(2.8%)であった。

2番目に本人が悩んだ時の頼りになる相談相手(N=636)は、「学生時代からの友人」が132名(20.8%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が35名(5.5%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が24名(3.8%)、「夫を通しての友人」が3名(0.5%)、「近所や地域の人たち」が12名(1.9%)、「仕事を通しての友人」が74名

(11.6%)、「趣味を通しての友人」が11名(1.7%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が190名(29.9%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が18名(2.8%)、「夫」が116名(18.2%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が2名(0.3%)、「保育園・幼稚園の先生や職員」が10名(1.6%)、「その他」が4名(0.6%)、「特に誰もいない」が5名(0.8%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、2番目に本人が悩んだ時の頼りになる相談相手(N=541)は、「学生時代からの友人」が113名(20.9%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が25名(4.6%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が19名(3.5%)、「夫を通しての友人」が2名(0.4%)、「近所や地域の人たち」が10名(1.8%)、「仕事を通しての友人」が72名(13.3%)、「趣味を通しての友人」が10名(1.8%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が160名(29.6%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が16名(3.0%)、「夫」が93名(17.2%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が2名(0.4%)、「保育園・幼稚園の先生や職員」が10名(1.8%)、「その他」が4名(0.7%)、「特に誰もいない」が5名(0.9%)であった。

3番目に本人が悩んだ時の頼りになる相談相手(N=526)は、「学生時代からの友人」が103名(19.6%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が45名(8.6%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が20名(3.8%)、「夫を通しての友人」が1名(0.2%)、「近所や地域の人たち」が16名(3.0%)、「仕事を通しての友人」が84名(16.0%)、「趣味を通しての友人」が12名(2.3%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が112名(21.3%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が21名(4.0%)、「夫」が63名(12.0%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が11名(2.1%)、「保育園・幼稚園の先生や職員」が15名(2.9%)、「その他」が4名(0.8%)、「特に誰もいない」が19名(3.6%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、3番目に本人が悩んだ時の頼りになる相談相手(N=448)は、「学生時代からの友人」が85名(19.0%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が32名(7.1%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が18名(4.0%)、「夫を通しての友人」が1名(0.2%)、「近所や地域の人たち」が15名(3.3%)、「仕事を通しての友人」が79名(17.6%)、「趣味を通しての友人」が6名(1.3%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が99名(22.1%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が17名(3.8%)、「夫」が54名(12.1%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が10名(2.2%)、「保育園・幼稚園の先生や職員」が15名(3.3%)、「その他」が4名(0.9%)、「特に誰もいない」が13名(2.9%)であった。

育児サービスの要望に関しては、「乳児保育(出産後・出産休暇後できるだけ早く預かってくれる)」(N=663)は、「特に必要」が196名(29.6%)、「できれば必要」が275名(41.5%)、「現状でよい」が164名(24.7%)、「必要ない」が28名(4.2%)であった。

「病児保育(子どもが軽い病気の時にも預かってくれる)」(N=677)は、「特に必要」が226名(33.4%)、「できれば必要」が298名(44.0%)、「現状でよい」が114名(16.8%)、「必要ない」が39名(5.8%)であった。「障害児保育(一般の園で障害児を預かってくれる)」(N=670)は、「特に必要」が235名(35.1%)、「できれば必要」が291

名(43.4%)、「現状でよい」が129名(19.3%)、「必要ない」が15名(2.2%)であった。「早期保育(朝の保育開始時間を早める)」(N=668)は、「特に必要」が114名(17.1%)、「できれば必要」が222名(33.2%)、「現状でよい」が301名(45.1%)、「必要ない」が31名(4.6%)であった。「延長保育・預かり保育(保育終了時間を延ばす)」(N=678)は、「特に必要」が188名(27.7%)、「できれば必要」が228名(33.6%)、「現状でよい」が247名(36.4%)、「必要ない」が15名(2.2%)であった。「夜間保育(夜間も子どもを預かってくれる)」(N=670)は、「特に必要」が100名(14.9%)、「できれば必要」が226名(33.7%)、「現状でよい」が271名(40.4%)、「必要ない」が73名(10.9%)であった。「休日保育(日曜・祝日にも子どもを預かってくれる)」(N=680)は、「特に必要」が150名(22.1%)、「できれば必要」が275名(40.4%)、「現状でよい」が183名(26.9%)、「必要ない」が72名(10.6%)であった。「一時保育(一時的・緊急的に子どもを預かってくれる)」(N=679)は、「特に必要」が194名(28.6%)、「できれば必要」が331名(48.7%)、「現状でよい」が132名(19.4%)、「必要ない」が22名(3.2%)であった。「親子で参加する育児教室事業」(N=666)は、「特に必要」が52名(7.8%)、「できれば必要」が202名(30.3%)、「現状でよい」が365名(54.8%)、「必要ない」が47名(7.1%)であった。「電話による相談事業」(N=661)は、「特に必要」が50名(7.6%)、「できれば必要」が190名(28.7%)、「現状でよい」が375名(56.7%)、「必要ない」が46名(7.0%)であった。「家庭訪問による相談事業」(N=660)は、「特に必要」が34名(5.2%)、「できれば必要」が167名(25.3%)、「現状でよい」が382名(57.9%)、「必要ない」が77名(11.7%)であった。「児童手当などの増額・期間延長」(N=697)は、「特に必要」が416名(59.7%)、「できれば必要」が192名(27.5%)、「現状でよい」が81名(11.6%)、「必要ない」が8名(1.1%)であった。「子どもの医療費の減免の充実」(N=695)は、「特に必要」が486名(69.9%)、「できれば必要」が144名(20.7%)、「現状でよい」が62名(8.9%)、「必要ない」が3名(0.4%)であった。「その他」(N=25)は、「特に必要」が24名(100.0%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、育児サービスの要望に関しては、「乳児保育(出産後・出産休暇後できるだけ早く預かってくれる)」(N=571)は、「特に必要」が185名(32.4%)、「できれば必要」が230名(40.3%)、「現状でよい」が137名(24.0%)、「必要ない」が19名(3.3%)であった。「病児保育(子どもが軽い病気の時にも預かってくれる)」(N=585)は、「特に必要」が211名(36.1%)、「できれば必要」が258名(44.1%)、「現状でよい」が88名(15.0%)、「必要ない」が28名(4.8%)であった。「障害児保育(一般の園で障害児を預かってくれる)」(N=579)は、「特に必要」が213名(36.8%)、「できれば必要」が251名(43.4%)、「現状でよい」が106名(18.3%)、「必要ない」が9名(1.6%)であった。「早期保育(朝の保育開始時間を早める)」(N=578)は、「特に必要」が105名(18.2%)、「できれば必要」が190名(32.9%)、「現状でよい」が263名(45.5%)、「必要ない」が20名(3.5%)であった。「延長保育・預かり保育(保育終了時間を延ばす)」(N=585)は、「特に必要」が165名(28.2%)、「できれば必要」が188名(32.1%)、「現状でよい」が220名(37.6%)、「必要ない」が12名(2.1%)であった。「夜間保育(夜間も子どもを預かってくれる)」(N=579)は、「特に必要」が92名(15.9%)、

「できれば必要」が200名(34.5%)、「現状でよい」が232名(40.1%)、「必要ない」が55名(9.5%)であった。「休日保育(日曜・祝日にも子どもを預かってくれる)」(N=588)は、「特に必要」が138名(23.5%)、「できれば必要」が241名(41.0%)、「現状でよい」が153名(26.0%)、「必要ない」が56名(9.5%)であった。「一時保育(一時的・緊急的に子どもを預かってくれる)」(N=582)は、「特に必要」が164名(28.2%)、「できれば必要」が281名(48.3%)、「現状でよい」が117名(20.1%)、「必要ない」が20名(3.4%)であった。「親子で参加する育児教室事業」(N=572)は、「特に必要」が44名(7.7%)、「できれば必要」が170名(29.7%)、「現状でよい」が322名(56.3%)、「必要ない」が36名(6.3%)であった。「電話による相談事業」(N=571)は、「特に必要」が46名(8.1%)、「できれば必要」が166名(29.1%)、「現状でよい」が323名(56.6%)、「必要ない」が36名(6.3%)であった。「家庭訪問による相談事業」(N=567)は、「特に必要」が31名(3.5%)、「できれば必要」が145名(25.6%)、「現状でよい」が327名(57.7%)、「必要ない」が64名(11.3%)であった。「児童手当などの増額・期間延長」(N=597)は、「特に必要」が361名(60.5%)、「できれば必要」が160名(26.8%)、「現状でよい」が69名(11.6%)、「必要ない」が7名(1.2%)であった。「子どもの医療費の減免の充実」(N=594)は、「特に必要」が412名(69.4%)、「できれば必要」が126名(21.2%)、「現状でよい」が54名(9.1%)、「必要ない」が2名(0.3%)であった。「その他」(N=25)は、「特に必要」が22名(100.0%)であった。

子育てする上で最も頻繁に頼む人(N=723)は、「学生時代からの友人」が9名(1.2%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が9名(1.2%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が3名(0.4%)、「夫を通しての友人」が0名(0.0%)、「近所や地域の人たち」が9名(1.2%)、「仕事を通しての友人」が5名(0.7%)、「趣味を通しての友人」が1名(0.1%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が331名(45.8%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が117名(16.2%)、「夫」が189名(26.1%)、「有料の保育サービス」が16名(2.2%)、「その他」が10名(1.4%)、「特に誰もいない」が24名(3.3%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、子育てする上で最も頻繁に頼む人(N=618)は、「学生時代からの友人」が9名(1.5%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が6名(1.0%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が3名(0.5%)、「夫を通しての友人」が0名(0.0%)、「近所や地域の人たち」が9名(1.5%)、「仕事を通しての友人」が4名(0.6%)、「趣味を通しての友人」が0名(0.0%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が288名(46.6%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が99名(16.0%)、「夫」が154名(24.9%)、「有料の保育サービス」が16名(2.6%)、「その他」が9名(1.5%)、「特に誰もいない」が21名(3.4%)であった。

子育てする上で2番目に頻繁に頼む人(N=602)は、「学生時代からの友人」が22名(3.7%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が40名(6.6%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が8名(1.3%)、「夫を通しての友人」が2名(0.3%)、「近所や地域の人たち」が18名(3.0%)、「仕事を通しての友人」が6名(1.0%)、「趣味を通しての友人」が2名(0.3%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が147名(2

4.4%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が132名(21.9%)、「夫」が175名(29.1%)、「有料の保育サービス」が19名(3.2%)、「その他」が9名(1.5%)、「特に誰もいない」が22名(3.7%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、子育てする上で2番目に頻繁に頼む人(N=509)は、「学生時代からの友人」が19名(3.7%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が27名(5.3%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が6名(1.2%)、「夫を通しての友人」が2名(0.4%)、「近所や地域の人たち」が16名(3.1%)、「仕事を通しての友人」が6名(1.2%)、「趣味を通しての友人」が2名(0.4%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が131名(25.7%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が113名(22.2%)、「夫」が146名(28.7%)、「有料の保育サービス」が17名(3.3%)、「その他」が7名(1.4%)、「特に誰もいない」が17名(3.3%)であった。

子育てする上で3番目に頻繁に頼む人(N=403)は、「学生時代からの友人」が29名(7.2%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が27名(6.7%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が16名(4.0%)、「夫を通しての友人」が0名(0.0%)、「近所や地域の人たち」が25名(6.2%)、「仕事を通しての友人」が15名(3.7%)、「趣味を通しての友人」が3名(0.7%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が69名(17.1%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が83名(20.6%)、「夫」が67名(16.6%)、「有料の保育サービス」が14名(3.5%)、「その他」が4名(1.0%)、「特に誰もいない」が51名(12.7%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、子育てする上で3番目に頻繁に頼む人(N=333)は、「学生時代からの友人」が27名(8.1%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が19名(5.7%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が14名(4.2%)、「夫を通しての友人」が0名(0.0%)、「近所や地域の人たち」が18名(5.4%)、「仕事を通しての友人」が14名(4.2%)、「趣味を通しての友人」が3名(0.9%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が56名(16.8%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が73名(21.9%)、「夫」が48名(14.4%)、「有料の保育サービス」が13名(3.9%)、「その他」が4名(1.2%)、「特に誰もいない」が44名(13.2%)であった。

自分にとっての子どもの存在(N=733)は、「心の安らぎを与えてくれる」が364名(49.7%)、「いないときみしい」が343名(46.8%)、「生活を充実させてくれる」が185名(25.2%)、「夫婦の関係をつなぐ」が121名(16.5%)、「社会の担い手となる」が14名(1.9%)、「生きがい」が192名(26.2%)、「自分を成長させてくれる」が326名(44.5%)、「自分の分身」が65名(8.9%)、「相談相手・話し相手」が66名(9.0%)、「老後の面倒をみてもらう」が5名(0.7%)、「家を継ぐ」が4名(0.5%)、「いざというときにあてになる」が11名(1.5%)、「一人の独立した個人」が117名(16.0%)、「生活に楽しさを与えてくれる」が450名(61.4%)、「その他」が4名(0.5%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、自分にとっての子どもの存在(N=626)は、「心の安らぎを与えてくれる」が320名(51.1%)、「いないときみしい」が292名(46.6%)、「生活を充実させてくれる」が151名(24.1%)、「夫婦の関係をつなぐ」が107名(17.1%)、「社会の担い手となる」が12名(1.9%)、「生きがい」が172名(27.5%)、「自分を成長させてくれる」が276名(44.1%)、「自分の分

身」が56名（8.9%）、「相談相手・話し相手」が58名（9.3%）、「老後の面倒をみてもらう」が5名（0.8%）、「家を継ぐ」が3名（0.5%）、「いざというときにあてになる」が9名（1.4%）、「一人の独立した個人」が103名（16.5%）、「生活に楽しさを与えてくれる」が380名（60.7%）、「その他」が4名（0.6%）であった。

子育てに関する意見に対しては、「子どもが小さいうちは育児に専念すべきである」（N=717）は、「そう思う」が206名（28.7%）、「ややそう思う」が293名（40.9%）、「あまり思わない」が139名（19.4%）、「そう思わない」が79名（11.0%）であった。「女性が仕事をするなら家事・育児の責任を果たした上ですべきである」（N=717）は、「そう思う」が103名（14.4%）、「ややそう思う」が228名（31.8%）、「あまり思わない」が233名（32.5%）、「そう思わない」が153名（21.3%）であった。「育児は父母が対等にすべきである」（N=716）は、「そう思う」が413名（57.7%）、「ややそう思う」が187名（26.1%）、「あまり思わない」が99名（13.8%）、「そう思わない」が17名（2.4%）であった。「子育てと家事だけで一生を終わらせたくない」（N=718）は、「そう思う」が460名（64.1%）、「ややそう思う」が140名（19.5%）、「あまり思わない」が86名（12.0%）、「そう思わない」が32名（4.5%）であった。「子離れはできるだけ早くした方がいい」（N=719）は、「そう思う」が158名（22.0%）、「ややそう思う」が224名（31.2%）、「あまり思わない」が279名（38.8%）、「そう思わない」が58名（8.1%）であった。「育児期は子どもに自分の人生を犠牲にされるのも仕方がない」（N=714）は、「そう思う」が203名（28.4%）、「ややそう思う」が272名（38.1%）、「あまり思わない」が159名（22.3%）、「そう思わない」が80名（11.2%）であった。「育児によって母親は成長する」（N=719）は、「そう思う」が586名（81.5%）、「ややそう思う」が107名（14.9%）、「あまり思わない」が24名（3.3%）、「そう思わない」が2名（0.3%）であった。「できるだけ、自分の生き方・生活を大切にしたい」（N=714）は、「そう思う」が320名（44.8%）、「ややそう思う」が276名（38.7%）、「あまり思わない」が96名（13.4%）、「そう思わない」が22名（3.1%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、子育てに関する意見に対しては、「子どもが小さいうちは育児に専念すべきである」（N=612）は、「そう思う」が155名（25.3%）、「ややそう思う」が255名（41.7%）、「あまり思わない」が125名（20.4%）、「そう思わない」が77名（12.6%）であった。「女性が仕事をするなら家事・育児の責任を果たした上ですべきである」（N=612）は、「そう思う」が85名（13.9%）、「ややそう思う」が188名（30.7%）、「あまり思わない」が198名（32.4%）、「そう思わない」が141名（23.0%）であった。「育児は父母が対等にすべきである」（N=611）は、「そう思う」が363名（59.4%）、「ややそう思う」が156名（25.5%）、「あまり思わない」が78名（12.8%）、「そう思わない」が14名（2.3%）であった。「子育てと家事だけで一生を終わらせたくない」（N=613）は、「そう思う」が395名（64.4%）、「ややそう思う」が117名（19.1%）、「あまり思わない」が74名（12.1%）、「そう思わない」が27名（4.4%）であった。「子離れはできるだけ早くした方がいい」（N=614）は、「そう思う」が139名（22.6%）、「ややそう思う」が187名（30.5%）、「あまり思わない」が239名（38.9%）、「そう思わない」が49名（8.0%）であった。「育児期は子どもに自分の人生を犠牲にされるのも仕方がない」（N=609）は、「そう思う」が175名（28.7%）、「ややそう思う」

が226名(37.1%)、「あまり思わない」が138名(22.7%)、「そう思わない」が70名(11.5%)であった。「育児によって母親は成長する」(N=614)は、「そう思う」が507名(82.6%)、「ややそう思う」が88名(14.3%)、「あまり思わない」が17名(2.8%)、「そう思わない」が2名(0.3%)であった。「できるだけ、自分の生き方・生活を大切にしたい」(N=609)は、「そう思う」が278名(45.6%)、「ややそう思う」が236名(38.8%)、「あまり思わない」が78名(12.8%)、「そう思わない」が17名(2.8%)であった。

Ⅲ. 少子化の要因と地域分析（S市とO市との比較）

主任研究者 佐藤秀紀 青森県立保健大学

【研究要旨】

本研究においては、これからの地域政策を考える新たな手がかりを見いだすことをねらいとして、北海道内に在住し、保育園に通園している子どもの母親を対象にして、少子化現象と地域間格差について検討することを目的とした。

その結果、『出生率』の地域格差の成因として、人口構造的、産業・経済構造的要因などの社会経済的要因の相違、家族構成の相違、住宅事情の相違、母親の晩婚化、地域社会の血縁的・地縁的絆の相違、子育てに関する意識の違いなどが、女性の出産行動に対して影響を及ぼしているものと示唆された。少子化が地域格差を伴いながら進行していることから、今後は地域社会における子育て支援に関する地域の実情に応じた取り組みが一層重要なものとなると考える。

【研究目的】

平成11年度の厚生白書においても、結婚や子育てに「夢」を持ってない日本社会のあり方が、少子化の背景となっている事実が指摘されている。誰もがゆとりを持って楽しく子育てをできる社会環境をつくりあげることが、社会全体で取り組むべき重要な課題となっている。わが国のように、有配偶女性の家庭外就業が進行する一方で、家庭内役割の男女分担がほとんどすすんでいない社会では、結婚と出産・子育てにともなう高い女性の機会コストを、幅広い政策的対応を通じて軽減することで、女性の仕事と家庭の両立を支援することが急務となっている。そのためには、出生力の決定要因のうち、どれが政策的対応の対象たりえるのか（つまり政策的に操作可能なのか）、その対応について具体的に何が望まれているのかを知ることが、政策が効果を発揮するために不可欠である。

都道府県レベルにおいては、『出生率』の最も高い沖縄県（1.81）と、最も低い東京都（1.05）との間においては大きな開きが生じている¹⁾。同一都道府県内においても『出生率』の差は一様でなく²⁾、北海道内においても『出生率』の最も高いT市（1.73）と、『出生率』の最も低いS市（1.18）では、出生率において大きな差異が生じている。わが国における『出生率』の動向についての分析は、これまで数多く報告されている³⁾。ところが、地域の特色を踏まえながら、地域間の格差に注目した分析はほとんど認められない。このようなことを背景に、現在北海道に在住し、乳幼児を持つ母親を対象にして、地域特性を踏まえながらその地域間の格差に注目し、少子化現象の背景を検討することによって、これからの子育て支援政策を考えるにあたり新たな手がかりを見だし、少子化社会への対応の政策の方向について具体的に提言することができるものとする。

そこで本研究においては、これからの地域政策を考える新たな手がかりを見いだすことをねらいとして、北海道内に在住し、保育園に通園している子どもの母親を対象にして、

少子化現象と地域間格差について検討することを目的とした。

【研究方法】

調査の対象は、北海道内において、『出生率』の低い地域のS市（『出生率』；1.18）および『出生率』の高い地域のO市（『出生率』；1.47）を選定し、その地域の保育園に通園している子どもの母親 974名（S市；348名、O市；626名）とした。

調査内容は、1）家庭と住まいの状況、2）母親自身の状況、3）夫の家事・育児の参加状況、4）子育てについての考え方とした。

家庭と住まいの状況に関しては、現在の子ども数、将来の予定する子ども数、理想として育てたい子ども数、育てたい子ども数と実際の子ども数の違いの理由、家族形態、母親の実家との距離、父親の実家との距離、住居のタイプ、居住年数等とした。

母親自身の状況に関しては、母親の年齢、母親の教育歴、母親の結婚時の年齢、母親育児体験、母親の就労の有無、母親の職歴、母親の社会的活動、母親の平日に使用している自由時間、母親の自由時間の活動、母親の交友関係、専業主婦に対する仕事に関する要望、母親の雇用形態、母親の職業、母親の出勤時間、母親の帰宅時間、母親の収入（月平均）、母親の仕事についての悩みや不満、母親の就労観、母親の就労継続の意思等とした。

夫の家事・育児の参加状況に関しては、家事・育児への参加状況、夫に対する評価、父親の年齢、父親の雇用形態、父親の職業、出勤時間、帰宅時間、夫婦での共同行動、家族での共同行動、父親の収入等とした。

子育てについての考え方に関しては、子育てする上での支え、子育てする上での困難、子育てする上での相談相手、本人の問題に対しての相談相手、育児サービスの要望、子育てする上でのサポート状況、自分にとっての子どもの存在、子育てに関する意見に対して等を調査項目とした。

解析に当たり、まずすべての調査項目に対し記述統計で検討した。さらに、少子化現象と地域間格差について検討した。

【調査結果】

1. S市とO市との比較

家庭と住まいの状況についてみると、S市は、子ども数（N= 348）が、平均1.72人、標準偏差0.79であった。一方、O市は、子ども数（N=625）が、平均1.98人、標準偏差0.94であった。O市はS市に比較して有意に子ども数が多いものとなっていた（ $t=4.652$, $p < 0.01$ ）。

育てたい子ども数と実際の子ども数の違いの理由については、11項目すべての項目において、O市とS市の間には有意差は認められなかった。

育てたい子ども数と実際の子ども数の違いの理由の中で1番目に障害となっていることについては、O市とS市の間には有意差は認められなかった。

育てたい子ども数と実際の子ども数の違いの理由の中で2番目に障害となっていることについても、O市とS市の間には有意差は認められなかった。

家族形態は、O市はS市に比較して有意に「父母+子+祖父母」の家族構成が多いものとなっていた（ $\chi^2=15.660$, $p < 0.05$ ）。